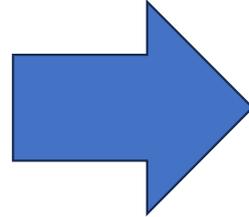


第六次秋田県国土利用計画の概要

1. 県土利用の現状と課題

現状

- 基盤整備が行われていない中山間地域を中心として、荒廃農地が増加
- ニホンジカ等の生息数が増加したことによる食害の発生
 - 森林の水源かん養機能の悪化、生態系ネットワークへの悪影響
- 急速に進む人口減少による低未利用土地の発生及び空き家の増加
- 県内外からの工業用地需要の高まり



課題

- 管理水準の悪化により、周辺地域への悪影響や地域社会の衰退等が懸念されることから、県土の適正な利用と管理を通じて県土を荒廃させない取組が必要
- 防災・減災対策の強化とともに、被害を最小化し、かつ速やかに復旧・復興できる県土の構築に向け、安全性を計画的に高めていく県土利用への転換が急務
- 自然環境の悪化や生物多様性の損失を止め、反転させるネイチャーポジティブの考えに根ざした県土利用・管理を進めていくことが重要

2. 県土利用に関する基本構想

①地域全体の利益を実現する最適な県土利用・管理

- 地域の合意形成に基づいた管理方法への転換を図る「国土の管理構想」の推進
- 市街地の無秩序な拡大の抑制
- 荒廃農地の発生防止、解消及び効率的な利用
- 森林経営管理制度等の活用による森林の整備・保全の推進

②土地本来の災害リスクを踏まえた賢い県土利用・管理

- 気候変動に伴う水災害の激甚化・頻発化に対応する「流域治水」の推進
- 災害ハザードエリアにおける開発抑制と居住誘導
- 事前防災・事前復興の観点からの地域づくり

③健全な生態系を確保することでつながる県土利用・管理

- 自然環境の有する多様な機能を活用したグリーンインフラの推進
- 地域共生型の風力・太陽光・バイオマス等の再エネの導入
- 優れた自然環境等の保全や管理の充実等による地域の活性化や農山漁村のつながりの強化

④県土利用・管理DXの推進

- 分野横断的な地域の情報を一元的に把握し、適切な県土利用・管理を推進する
- デジタルデータ、リモートセンシング等のデジタル技術の徹底活用による県土利用・管理の効率化・高度化

⑤多様な主体の参画・連携による県土利用・管理

- 所有者不明土地や管理不全の土地の適正な利用・管理
- 関係人口の拡大と地域との関わりを深化

3. 県土の利用区分ごとの規模の目標

区分	令和3年 km ²	令和17年 km ²	構成比 (%)	
			令和3年	令和17年
農地	1,463	1,426	12.6	12.3
森林	8,389	8,385	72.1	72.1
原野等	148	148	1.3	1.3
水面・河川・水路	459	469	3.9	4.0
道路	337	353	2.9	3.0
宅地	298	299	2.6	2.6
住宅地	180	180	1.5	1.5
工業用地	18	19	0.2	0.2
その他の宅地	100	100	0.9	0.9
その他	544	558	4.7	4.8
合計	11,638	11,638	100.0	100.0

4. 必要な措置の概要

- 所有者不明土地等の低未利用土地及び空き家等を含む既存住宅ストック等の有効利用を図る
- 土地本来の災害リスクや地域の状況を踏まえつつ、災害リスクの低い地域への立地による誘導や関係法令に基づいた土地利用制限を行う規制区域の指定を促進
- 森・里・まち・川・海のつながりを確保した広域的な生態系ネットワークの形成
- 世界遺産「白神山地」等の自然資源を活かした上質なエコツーリズムの推進
- 地域共生型の風力・太陽光・バイオマス等の再エネの導入
- 農地の集積・集約の推進及び地域の保全管理活動の支援
- 鳥獣被害対策、路網整備、森林境界の明確化及び再造林・間伐等の森林整備の推進